

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成22年3月25日(2010.3.25)

【公開番号】特開2008-210062(P2008-210062A)

【公開日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【年通号数】公開・登録公報2008-036

【出願番号】特願2007-44727(P2007-44727)

【国際特許分類】

G 08 B 17/00 (2006.01)

G 08 B 23/00 (2006.01)

【F I】

G 08 B 17/00 D

G 08 B 23/00 5 2 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月5日(2010.2.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

煙、熱などの火災要因を検知して、検知信号を出力する火災検知手段と、前記火災検知手段から出力される検知信号が、設定された火災発報レベルを超えているか否かを判別し、かつ、試験操作釦が操作されたときには内部回路の試験結果を発報させる制御手段と、前記制御手段での判別結果と試験結果とのそれぞれに応じて、火災発報、前記火災発報よりも小さな音量の試験発報を行う火災発報処理手段と、を備えた火災警報器であって、前記制御手段は、前記試験操作釦の操作に連動して計時を開始し、前記試験操作釦の操作時間を計時するタイマーを備えており、前記試験操作釦の操作時間が所定時間の間は、前記内部回路の試験結果に応じて、前記火災発報処理手段によって前記試験発報を行わせ、その後、前記試験操作釦の操作時間が所定時間を経過したときには、前記火災発報処理手段によって、前記火災発報を行わせることを特徴とする火災警報器。

【請求項2】

煙、熱などの火災要因を検知して、検知信号を出力する火災検知手段と、前記火災検知手段から出力される検知信号が、設定された火災発報レベルを超えているか否かを判別し、かつ、試験操作釦が操作されたときには内部回路の試験を行う制御手段と、前記制御手段での判別結果と試験結果とのそれぞれに応じて、火災発報、前記火災発報よりも小さな音量の試験発報を行う火災発報処理手段と、を備えた火災警報器であって、前記制御手段は、前記試験操作釦の操作に連動して計時を開始し、前記試験操作釦の操作時間を計時するタイマーを備えており、前記試験操作釦が操作されてから所定時間の間は、前記内部回路の試験を行って、その試験結果に応じて、前記火災発報処理手段によって前記試験発報を行わせ、その後、試験発報禁止時間の間は、前記試験発報を禁止させ、ついで、前記試験発報禁止時間が経過したときには、前記火災発報処理手段によって、前記火災発報を行わせることを特徴とする火災警報器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0008】**

上記目的を達成するために、本発明の請求項1に記載の火災警報器では、煙、熱などの火災要因を検知して、検知信号を出力する火災検知手段と、前記火災検知手段から出力される検知信号が、設定された火災発報レベルを超えているか否かを判別し、かつ、試験操作釦が操作されたときには内部回路の試験結果を発報させる制御手段と、前記制御手段での判別結果と試験結果とのそれぞれに応じて、火災発報、前記火災発報よりも小さな音量の試験発報を行う火災発報処理手段と、を備えた火災警報器であって、前記制御手段は、前記試験操作釦の操作に連動して計時を開始し、前記試験操作釦の操作時間を計時するタイマーを備えており、前記試験操作釦の操作時間が所定時間の間は、前記内部回路の試験結果に応じて、前記火災発報処理手段によって前記試験発報を行わせ、その後、前記試験操作釦の操作時間が所定時間を経過したときには、前記火災発報処理手段によって、前記火災発報を行わせることを特徴とする。

【手続補正3】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0016****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0016】**

図2の例では、天井面に取り付けられるベース部1Aに、感知部1Cを設けたヘッド部1Bを着脱可能に固着させており、ヘッド部1Bの適所には、試験操作釦1_2を設けているが、このような外観に限定されないことはいうまでもない。

【手続補正4】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0019****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0019】**

この火災警報器1は、制御手段として、マイクロコンピュータなどで構成され、タイマー11Aを有する制御部11を備えており、制御部11には、試験操作釦1_2が操作されているときには操作信号が入力されるようになっている。タイマー11Aは、試験操作釦1_2の操作に伴う操作信号が入力されるのに連動して計時を開始し、操作信号が入力されている間は、計時を継続する。

【手続補正5】**【補正対象書類名】図面****【補正対象項目名】図2****【補正方法】変更****【補正の内容】**

【図2】

